

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	むらぎも
Author(s)	緒方, 茂夫
Citation	龍南, 2 1 3 : 4 8 - 4 9
Issue date	1930-03-10
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/6945
Right	

むらぎも

緒方茂夫

湯の町

乏しらの湯音静けし仰向けば窓越しのはては星の空かも
湯の宿にひと夜眠ればをりを枕に遠く水の音きこゆ
旅こよひねつきがたきを枕がみかけひこぼる水の音かも
ねしづまる町のまなかを反古一つころがり行くもあはれ月夜を
船出すと濱におらべる海夫の聲聞近くきこゆ朝雨はれて

阿蘇

天そゝる幾山脈を垣にせる千里が濱に風吹き渡る

長崎

しめらひのしみらに寒し天主堂サンタ・マリヤの寝息のけはひ
太笛のこだまは長し秋まひるオランダ坂をわれ下りにけり

龍 居

龍居の庭冬さひし枝のはに尾をふる鳥のしまらく居るも
ひむがしの大阿蘇が嶺に渡る雲噴煙かくしてひと日動かず
澄瀬と加留多に勇みし宵ながらせんすべもなく雨音をきゝおり

春を迎ふ

村の兒の早蕨持ちて走り越す谿ぞひの路春はれにけり
初春の陽のうらうらと光るなか白梅かざして馬の行くあり
いささめの山の歩きに疲れ來て春定れる陽を浴みてをり

子等學びに來て

家めぐる寒さを思ひこの夜更け歸り行く子をあはれみにけり
冴えかへる霜夜の道を歸り行く子等を思ひて燈を消しにけり
子等二人いまは家に着きなんと心やすめて眼を閉ぢにけり